

令和2年度 椎葉村立大河内小学校 学校関係者評価書

4段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営ビジョン 本村の重点課題である「德育」コミュニケーション能力の育成と「知育」学力向上を最重点目標にすえ、「体育・食育」「地域との連携・協働」の重点目標を達成するために、職員が愛情と情熱をもち、家庭や地域との連携を図りながら、組織的に全力で取り組む。また、保護者や地域住民の信頼と期待に応え、大河内小の子ども、教師、保護者が自分や学校、地域に自信と誇りがもてるようにするための学校経営を行う。

※ 関係者評価については、学校評議員の評価の平均値

項目	本年度の重点目標	具体的対策（手段）	自己評価	関係者評価	結果の分析・考察および改善策等	学校評価関係者からの意見
人間性・社会性の育成	感性を磨き、自分の思いや考えを的確に伝えるコミュニケーション能力等の豊かな人間性や社会性を身に付けさせる。	① 道徳教育の推進	3	3.2	○ 心豊かな児童を育成するために、各学級において特別の教科道徳の授業を実践している。また、学校行事や生活科、総合的な学習の時間における体験活動を通して、公共心や規範意識、思いやりの心などを育てることができた。	○ 新型コロナの影響で、様々な教育活動を行うことが大変だったと思う。 ○ 図書室の蔵書数など充実していると思う。
		② 生徒指導や人権教育の充実	3	3.0	○ 毎月実施している、「あのねタイム」や生徒指導研修会で児童の交友関係や悩み等を把握し、情報共有を行い、指導体制等についても全職員で共通理解を図ることができた。県が位置づけている「いのちの教育週間」では、いのちを大切にす内容の学習を各学年の実態に応じて実践することができた。	
		③ 読書活動の推進	3	3.0	○ 11月までの児童への貸出冊数は、1060冊で、1ヶ月あたり平均8冊と昨年度と同じ時期の貸出冊数を上回っている。11月下旬から椎葉村交流拠点施設Katerieからのリモートによる読書推進の活動もスタートした。家庭での親子読書については、「読書の日」を設定しているが、十分な取組ができていないと言いがたい。「読書の日」の取組について方法や内容について検討する必要がある。	
		④ 学校間連携や豊かな体験活動の実践	3	3.2	○ 新型コロナ感染予防対策の観点から「交流椎葉」「交流草川」など学校間連携を図る活動を十分に行うことができなかった。そのなかでも、秋の遠足における地域のよさを知る活動や稲作、野菜の栽培活動等の豊かな体験活動を行うことができた。キャリアパスポートについては、来年度からの本格実施に向けて準備を行った。	
授業力向上と学力向上	児童一人一人の学習意欲を高め、授業力並びに学習の資質・能力を向上させる。	① 「分かった・できた」と実感できる授業の実践	3	3.2	○ 日々の授業においては、宮崎県が示している4つのチェックポイントを意識して授業実践している。また、校内の研究テーマである「読解力の育成」に向けて学級担任が各教科において手立て等を工夫している。新しい教育活動（プログラミング教育、外国語教育等）も校内研修等を行い、積極的に取り組むことができた。	○ 短い時間の参観だったが、の指導における工夫や努力を感じることができた。 ○ 授業などにも地域から学校に関わりを持っていきたいと思う。 ○ 学校での授業の取組を保護者にも、しっかりと理解を深めてもらい、学校、家庭が密に連絡を取り合う等、家庭学習の充実にも努めて欲しい。
		② 基本的学習習慣の徹底	3	3.0	○ 授業開始の号令等、児童にしっかりと定着し、全学年チャイムと同時に授業がスタートできている。話の聞き方や発表の仕方など学習のきまりも全学年で共通実践でき、基本的な学習習慣が身に付いている。しかし、家庭学習に対する児童の意識に個人差があり、基礎学力を定着させる家庭学習の取組にも力を入れる必要がある。	
		③ 複式解消や個別指導の工夫	3	2.8	○ 低学年の国語や中学年の社会や理科で複式指導の解消を行うことで基礎学力の定着を図っている。今後も一人一人の実態に応じた指導を重視していく。家庭学習については、保護者との連携が十分に図られていない状況も見られる。家庭学習の内容等について保護者と意見交換をする場を設定するなど手立ての工夫が必要である。	
		④ 特別支援教育の充実	3	3.4	○ 特別支援学級担任を中心に、毎月の校内委員会や夏季休業中の特別支援研修を通して、職員の特別支援教育に関する理解や指導力の向上を図ることができた。	

健康・安全と体力向上	体力・健康づくりの活動を充実し、食育・安全教育を推進させ、児童一人一人に望ましい習慣や実践力を身に付けさせる。	① 体力向上プランの完全実施	3	2.8	○ 体力向上プランの完全実施に向けて、体育の導入時のサーキットトレーニングや休み時間等に活用できる遊具を使った運動の紹介などを行った。しかし、本年度は新型コロナウイルスの感染拡大予防対策により、体力テストも実施することができず、児童の体力の変容を確認することができなかった。児童の体力向上低下や運動機会の減少を心配する意見も見られる。今後も様々な運動を通して、児童の体力向上を図っていく。	○ 危険箇所等については、地域内を歩いて見て回るとよいと思う。
		② 健康教育の充実	3	2.8	○ 本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大予防対策で例年以上に健康教育に力を入れた。業間活動の「すくすくタイム」で、手洗い、うがいなどの基本的な保健衛生習慣を身に付けることができた。また、「すくすくカード」で家庭との連携を図ったり、学校保健委員会を実施したりしたことで、保護者の保健に関する意識を啓発することができた。しかし、学校の取組に関しては評価してもらっているが、児童の健康安全についての習慣等については、十分でないと感じている状況が見られる。	
		③ 食に関する指導の充実	3	3.2	○ 本年度は、各学級での給食になったが、食事のマナー、偏食等に気を付けながら食事できるようにしている。「弁当の日」の取組も計画的に実施することができた。食物アレルギーについては、全職員で研修を行い、全職員で共通理解を図りながら対応することができ、事故等もなかった。	
		④ 危険予知能力や危険回避能力の育成	3	2.8	○ 避難訓練や土砂災害防止教室等、地域の方にも協力いただき計画的に実施できた。これらの活動を通して、災害時における「自分の命は自分で守る」という危険予知と危険回避能力については、知識として理解させることができた。しかし、廊下歩行や昼休み時間の遊び方を見ても日常生活における危険予知や危険回避能力は十分に備わっていない状況が見られる。	
家庭・地域との連携・協働	学校と家庭・地域との連携を通じた教育活動を推進し、地域から信頼される学校づくりを行う。	① 地域を生かした学習の充実	3	3.0	○ 本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大予防対策のため、地域を生かした学習を十分に行うことができなかった。地域の九州大学演習林施設を活用した宿泊学習も実施できなかった。秋の遠足では、十根川集落や大久保のヒノキを見学したり、椎葉村拠点施設のK a t e r i eを利用したり椎葉村のよさを感じることができた。	○ 新型コロナの影響で、様々な行事の実施ができなかったことは残念だったが、別の視点からの活動も取り入れて地域との連携を取れるとよいと思う。 ○ 「せせらぎ」など学校からの情報発信を楽しみにしている。
		② 学校と地域が一体となる活動の実施	3	3.0	○ 白太鼓踊りや神楽の伝承活動等、新型コロナウイルスの感染拡大予防対策をとりながら、地域の方にご協力をいただき実施することができた。学校だよりやホームページ等で学校の活動の様子なども積極的に発信することができた。	
		③ 地域からの学校支援活動の充実	3	3.0	○ 本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大予防対策のために、地域の方と連携した活動の中止を余儀なくされた。そのような状況の中でも秋季大運動会等では、地域の方から温かいご支援を頂いた。	
		④ 地域から学校運営への参画促進	3	2.8	○ 学校運営協議会を計画的に実施し、学校評価に関しても地域の方の意見を取り入れながら行うことができた。今後はさらに地域の方の参画意識を高めながら、学校運営を進めていきたい。	

次年度の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域素材等を活用した体験活動や遠隔授業を効果的に取り入れる等、コミュニケーション力や自己表現力の育成を図る。 ○ 「分かった・できた」と実感できる授業を充実させ、児童の学力向上を図る。 ○ ICT教育に対応できるスキルを身に付けた児童の育成を図る。 ○ 複式指導の工夫改善を図るとともに、個別指導を充実させる。 ○ 学習内容や児童の学習の定着度など家庭との連携をとり、家庭学習の充実を図る。 ○ 体力向上プランを生かして、児童の体力向上を図る。 ○ 健康面に関する学校での取組が家庭でも継続できるように、情報発信や家庭と連携した取組等を充実させる。 ○ 「自分の命は自分で守る」を前提とした、日常的な危険予知能力や危険回避能力の育成を図る。 ○ 新しい生活様式に対応した、地域との連携の在り方を模索し、地域に信頼される学校づくりを行う。
---------	--